

兵庫県保険医協会・第28回日常診療経験交流会

日常診療の原動力 ～この10年、これからの10年～ (変容する社会)

- 日時 10月27日(日) 10時～17時
- 会場 神戸市産業振興センター9・10階

◇特別講演（14時45分～）

「(あまり)病気をしない暮らしーがんは『運』である」

講師 大阪大学大学院 医学系研究科・病理学 教授 仲野 徹 先生

病気になるたくない。誰もが思うことですが、それは不可能です。悪性新生物、いわゆる「がん」は、日本人の死因の一位で、一生の間がんと診断される人は国民の半分にもなります。

がんは、細胞が無限に増殖する疾患で、がんの発症に関与する遺伝子の(突然)変異によることがわかっています。がんは、加齢に伴うランダムな遺伝子変異の蓄積することによって発症しますから、ある意味では長生きによる宿命、避けることのできない病気なのです。

しかし、最近では、遺伝子変異に対して特異的な効果を発揮する分子標的薬や、あたらしい免疫療法が開発されてきました。がんとはどういう病気なのか、そして、その予防法はあるのか、などについてわかりやすく説明いたします。 【仲野 記】

【なかの とおる】 1957年大阪生まれ。75年大阪府立大手前高等学校卒業、81年大阪大学医学部医学科卒業。84年大阪大学医学部助手(北村幸彦教授)、89年ヨーロッパ分子生物学研究所(EMBL)客員研究員(Thomas Graf 教授)、90年京都大学医学部助手(本庄佑教授)、91年京都大学医学部講師、95年大阪大学微生物病研究所教授(遺伝子動態研究分野)、2004年大阪大学大学院教授(生命機能研究科 時空生物学、医学系研究科 病理学)。著書に『(あまり)病気をしない暮らし』『こわいもの知らずの病理学講義』(いずれも晶文社)、『エビジェネティクスー新しい生命像をえがく』(岩波新書)など。



◇分科会（10時～14時35分）

日常診療、在宅医療、医院経営、メインテーマ関連など。医師・歯科医師・薬剤師・看護師・事務職員らが、日常診療上の創意・工夫などの経験や研究内容を発表します。

<お問い合わせ先> 兵庫県保険医協会 Tel.078-393-1840 Fax 078-393-1820

兵庫県保険医協会

北播支部

ニュース

2019年9月25日号 No.176

発行者 兵庫県保険医協会北播支部
支部長 林 武志

〒650-0024 神戸市中央区海岸通1-2-31
神戸フコク生命海岸通ビル5階

☎(078)393-1801 FAX(078)393-1802

http://www.hhk.jp/

感想文 第35回支部総会記念講演

「生活」に目を向け患者負担軽減を

西脇市 木原 章雄

北播支部は6月22日、小野市内で第35回支部総会を開催。総会議事では林武志先生(西脇市)を新支部長に、木原章雄先生(西脇市)・足立了平先生(三木市)を新世話人に選出した。記念講演では「患者さんの負担軽減のために！知って得する医療・福祉の役立つ制度」と題し、神戸女子大学講師の阿江善春先生が講演。会員ら17人が参加した。座長を務めた木原先生の感想を紹介する。



阿江先生を講師に患者さんに役立つ制度を学んだ

今から3年前、私の勤務先からほど近い農村で痛ましい事件が起きました。82歳の夫が、重度認知症の79歳の妻の介護に疲れ果て、殺害してしまったのです。当時、私は総合病院で「物忘れ外来」を担当しており、「自分の関わっている患者さんではないようだ」と、一瞬安堵した記憶があります。しかし、それはさまざまな疑問や葛藤の始まりでした。

事件が起こる前に、何とか支援する方法はなかっただろうか…。医療や介護の社会的資源に乏しい地域では、「施設の空きを待つ」という選択肢しか示せないのだろうか

…。「幸せな認知症」ばかりではないという現実を突き付けられ、うまく答えが見出せないまま診療を続けていました。

そのため、このたび阿江先生のご講演を拝聴し、今まで漠然とした知識しかなかった医療・福祉制度について理解を深めるとともに、見落としていた制度、全く知らなかった制度など、翌日の診療からすぐに使える新しい知識を得ることができました。そして、講演を通じて、問題意識を共有する多くの先生方とつながりを持てたことを、心強く思いました。

キーワードは「3+1+5」です。すな

(2面へつづく)

（1面のつづき）

わち3つの福祉制度（高齢者・障害者・児童）、公的扶助、5つの保険制度（医療・年金・雇用・労災・介護）をうまくつなげて活用すれば、かなり多くの人に対して支援を行き渡らせることができると知りました。さらに、3福祉と公的扶助は5保険よりも上位にあり、前2者は憲法で規定された「生存権」に基づく保障制度であるのに対して、5保険は給付を受けるためには、保険料納付が条件となり、応益負担が生じる場合があるという点を理解しました。

各制度の併給の原則にも留意が必要です。私の診療科の精神科領域では、重度認知症患者でも障害者手帳を取得するメリットがあること、特別障害者手当金は独立した制度であり、月額2万7200円と、かなり手厚い保障制度であることを、見逃していました。講演の翌週から、さっそく手帳や特障の制度

について、該当する患者さんに案内を開始しました。

しかし、これらの制度を利用しても、不十分な給付にしかならず、すべての問題が解決するわけではありません。患者さんが診断書の記載可能な医療機関を受診し、煩雑な申請の手続きを自力で完了するのは困難なケースも多いでしょう。

患者さんの負担軽減のため医療・福祉制度を十分に活用するには、多くの相談員の力が必要です。そして、医療者は患者さんの「病気」だけではなく「生活」にも目を向け、病気の背景にある生活の問題を常に意識して診療にあたる必要性を実感しました。

改めて、阿江先生のご尽力に感謝するとともに、講演に参加された先生方と認識を共有し、地域医療に関わる多職種との連携を深めていくことを心に誓いました。



世話人会だより

第350回 9月18日（水）小野市・加東市医師会館 参加9人

◆北播支部の会員数と組織率

9/18現在 医科177人（91%）、歯科85人（60%）

◆情勢と医療運動対策など

「北播地域における出産可能な施設の減少」の影響を議論した。

◆当面の支部活動

健康と医療について語り合う会「てんかんの基礎知識」

日時 11月24日（日）13時30分～ 於・加東市社福祉センター

講師 ろっぽう診療所 千葉 義幸先生

参加費 無料

◆次回世話人会

10月16日（水）19時30分～ 小野市・加東市医師会館

お問い合わせはTEL 078-393-1809 吉永 まで

職員接遇研修会を開催

患者さんに寄り添う心を忘れずに

北播支部は8月31日、小野市内で接遇研修会を開催。「心通わず接遇～対応の基本とクレーム処理～」をテーマにJALキャビンアテンダントとして長年勤務された西岡ひとみ氏が講演。25人が参加した。

講師は接遇の基本を「その場限りの対応にとどまらず、相手に対して最良のサービス（気遣い）をし、最大の満足を与えることで、好ましい人間関係をつくること」とし、顔や声の表情の重要性を強調。「同じ言葉を使っても相手が受ける印象はその際の表情や声のトーンで大きく変わる。笑顔だけでなく声の表情に留意を」とした。

また、クレーム対応の例として「騒ぐ子どもに注意する場合」「治療費が高いといわれ



「声の表情に気をつけよう」と西岡先生

た場合」「長い時間患者を待たせてしまった場合」などの状況を設定し、それぞれの対応法を具体的に紹介。「患者さんの気持ちに寄り添う心を忘れずに傾聴を心がけることがカギ」と呼びかけた。

参加者アンケートより

「参加者アンケート」に寄せられた声は以下の通り（抜粋）

・ご自身のCAとしても経験を交えて話されたので、とても興味深く聞かせていただきました。仕事中はマスクを使用しているので「笑声」を心がけて患者様と接していきたいと思います。日々チームで働くことの大切さ、難しさを感じています。職場に持ち帰り居心地の良い環境作りに活かしていきたいです。（看護師 経験年数16年）

・チーム力の話がすごくためになりました。引きこまれました。「この講座に来ているだけですばらしい、自分が思っている以上

に認められている」という言葉が嬉しかったです。励まされました。これからも仕事を頑張ろうと思えました。（介護士 3年）

・接遇について学んだことがなかったのでとても貴重な経験でした。患者さんが思っていることをくみとって行動や言葉にすることで信頼関係が築け、医院との関係性も深まると思いました。今後いろんな場面で

活用していきたいです。（歯科衛生士 1年6カ月）

